

目次

自由*空間	「地球一周の船旅(2)」「浜(孝子越)街道を歩いてみる」	・・・ P 2
ご存知ですか	「千葉県のごんなトイレ見たことありますか!？」	・・・ P 2
私のおすすめ	「サウンド オフ ミュージック」「学習漫画 少年少女日本の歴史」	・・・ P 3
	「けんかのきもち」	・・・ P 3
図書館からのお知らせ		・・・ P 4

ラジオ今昔

渡辺 俊介

昭和20年代と30年代前半の戦後の混乱期、復興期には、家庭の娯楽の中心はラジオでした。「鐘の鳴る丘」、「お父さんはお人好し」などの連続ドラマや、「二十の扉」、「ごんち教室」などのクイズ、バラエティー番組が人気を集めていました。当時、小学生だった私は、「鐘の鳴る丘」を聴くのが楽しみで、今でも主題歌の歌詞とメロディーを憶えています。

中学生になったからは、ラジオで聴く古典落語にはまりました。プロの軽妙な語り口と、まるで映像を見ているかのように情景を思い描きながら、上質のユーモアと落ちの醍醐味を楽しんだものでした。昭和30年代半ば以降、茶の間の主役の座をテレビに明け渡してからは、ラジオの番組は音楽へとシフトしていきましました。特に昭和40年代後半からは、民放の深夜番組である「オールナイトニッポン」、「ABCヤン

グリクエスト」、「MBS ヤングタウン」などが、多くの海外のミュージシャンを紹介し、また日本の人気歌手をも多く育ててきました。そして、世をあげて情報デジタル化が進行中の現在に至り、お茶の間には、地デジ受信用の液晶テレビが鎮座し、電車内では、乗客の殆どがスマホを操り、オフィスでは、ビジネスマンがパソコンと格闘する時代となっています。このような時代だからこそ、アナログの大きさや垣間見えることのできるラジオに魅力を感じるのかもしれないですね。しかし、ラジオは、実はデジタル化にちゃんと対応しているのです。それは、知る人ぞ知るインターネット上で配信される「ネットラジオ」と呼ばれている無料のラジオ放送です。ネットラジオは、スピーカー又はヘッドホンをつけたパソコンやスマートフォンを使って、世界中の番組を高音

質で聴くことができるため、音楽ファンはもとより、英会話のヒアリング訓練のために聴いている人も多いようです。国内の代表的なネットラジオとしては、既存の電波放送と同じ内容を同時に配信している「radiko」(民間放送)、「らじる★らじる」(NHK)、地域限定の「FMエフティエーFM」の「SimulRadio」、TODD Aインターネットサイマルラジオ」、高音質で音楽(クラシック)を配信している「OTTAVA」(TBS)などがあります。インターネットをやっている方は一度アクセスしてみても如何でしょうか。

グートルズ世代の私も、高齢者になった今は、静かに「OTTAVA」を聴いています。



その1 尾崎地区

浜(孝子越)街道は、近世の漁業や海運の発達に伴い、泉佐野から和歌山の海沿いの集落を結び街道として、盛んに利用されました。本市へは、男里川に架かった兔砥橋(うどばし)を超えてからですが、道路の付け替えがあったようです。旧道は、UR団地の西端に里程標が立っています。尾崎港を経て、中心地に入っていきますと虫籠窓・出格子・持送りのある旧家の建物が残っていて、昔の町並みの雰囲気があります。商業・漁業で栄えた町で、商家風の建物や海岸に出ると船繋ぎ場も残っています。道幅は一・六間一・八間と昔のままです。この地区は、もう一本山手に本願寺尾崎別院の前を通る平行した道が通っています。こちらの方が町並

自由空間

横浜大棧橋で午前十一時から出港手続き。二人部屋の同室者は、私と同年齢の岐阜から来たS氏。元自衛官―工業高校の教師。今回が三回目の乗船。部屋は十二畳位で両サイドにベット。窓が二つあって思ったよりゆったりめ。十四時三〇分から出港のレセプション。シャンパンで乾杯! 送迎デッキで見送ってくれている私の妻と娘、S氏の奥様と娘さんに携帯電話で連絡を取って船のデッキから挨拶。十五時五分大勢の

人達に見送られ、台風接近の中出港。今回の乗船客は約八五〇人。若い人が三五〇人位。中高年が五〇〇人位で、内、女性が六割位。船員は五〇〇人。若い男性はフリーターや会社を退職してきた人が多く、女性は看護師、保育士、塾の教師など。年配者は定年後の自分へのご褒美という人が多い。夫婦は五〇組位。十七時三〇分から初めてのディナー。フランス料理風スズキの△ニエル。二人部屋、三人

みを見るとよいと思います。更に進むと神輿台・えびの浜があります。秋祭りには、神輿渡御で神輿が海に入る風景が勇壮です。尾崎地区は、町の西側に祠があって、お地藏さんが祀られており、しっかり町を守っています。

寺田 雄揮



部屋の五十代と思われる元気な女性たちと同席。その中のひとりMさんは、関東で英語塾―〇数校経営。海外旅行も五〇回以上のベテラン。この人ともう一人JALの元スチュワーデスYさんとは、その後三人で、スペインバルセロナ―フランスル・アーブルまで、バスや電車を乗り継いで、一週間の世界遺産めぐりの珍道中をすることとなる。

齋藤 勝弘

院」に写真展示中)

《ご存知ですか》 千葉県のこんなトイレ見たことがありますか!?

ギネス級のトイレ(女子専用)を紹介いたします。BSで放送されていたので見た方もおられると思いますが、実物を見た方はおられないと思います。そのトイレは千葉県市原市の小湊鉄道飯給駅(いたぶえぎ)という小さな無人駅の駅前にあります。敷地の面積は200㎡(60坪)で、ほぼ中央に総ガラス張りトイレがあります。周囲50mで高さ2.5mの杉板675本で囲われており中は見えません。普段、扉は解

放されており使用するときには内鍵でロック出来ます。トイレに行くには敷地の中のお花畑を横切って入ります。私は男ですから中に入れません、使用者に聞きますと周りを眺めながらのトイレ使用は味わったことが無い爽快感みたいです。夜の満月を見ながらも良いのではと思います。ただ夏の暑さはどうでしょうか。飯給駅はアクアライン木更津出口から1時間ほどの距離です。

大和田 裕一

『サウンド オフ ミュージック』
アメリカ編

リア・フォン・トラップ / 著 文溪堂 K933 ト

乙女の頃（男の方でも）映画「サウンド オブ ミュージック」を見て心を熱くされた方 音楽祭の後、トラップ一家が、アルプスを山越えして、アメリカへ・・・とまでは、なんとなくご存知の方も居られるでしょうが、くわしくは？だと思いません。この頃戦争を避けてトラップ一家と同

じようにアメリカに渡った人々は沢山居たようです。でも多くの人々は戦争が終わると、ほとんどの人が母国へ帰ってしまいました。トラップ一家の人達はご存知のように、子沢山。そしてお金を沢山持っていた訳ではなかったのです。仕事をしなければ生活も楽ではなかったのです。（人生、何が

良くって何が役に立つのか最後にならないと、わからない）マリアはアメリカへ行く船の中で、言葉を覚える努力をしました。渡米後も、一家で公演して歌いました。半世紀前の感動物語の続編をどうぞ

門脇 容子

『学習まんが 少年少女日本の歴史』

あおむら 純 / 画 小学館 K210

私は子どものころから日本史が大好きで、大学でも日本史を専攻しました。そうした私の日本史好きのきっかけとなったのがこのシリーズでした。歴史を勉強している感覚はなく、ただまんがとして楽しんでいました。その結果、中学生、高校生になったときにそこで得た知識が大いに役立ち

ました。出来事のつながりや流れがわかることはもちろんですが、「この人物が活躍していたころ、別の人物が違う場面で登場していたからその二人は同時代だ」といった感じで、人物同士をつないでいくことで試験の問題が解けたこともありました。また子どものころにはなかったと思いますが、最近で

は人物に焦点をあてているため、通史の場合より物語性が強く出ており、思わずほろりときてしまう場面もあります。子ども向けではありませんが、中学生、高校生、あるいは大人の方であっても手軽に歴史に触れ、楽しめるのではないかと思います。

辻 美穂

私のおすすめ



《児童書》 『けんかのきもち』 柴田 愛子 / 文 伊藤 秀男 / 絵 ポプラ社 E

主人公「たい」と一番の友だち「こうた」の“あそび島”のできごとです。子どもは仲が良い程けんかをします。それも取っ組み合い、なぐり合い、そして負けた時のくやしきは泣いてもどうしても治りません。周囲の人たちが「たい」の気持ちをほぐそうとしても仲々、素直になれず逆に意固地になってしまいます。

その後、みんなで作ったおやつのぎょうざがこの二人の仲が元通りになるきっかけをつ

くります。

これを読むと子どもと同様、大人にも通じるけんかの後の気持ちがあり、思わず「そうそう、わかるわかる」とつぶやいてしまいます。誰もが体験する心の変化を細やかに表した文と絵は子どもの表情に迫力があり、かつ大胆な色使いが忘れられない絵本です。まず、大人が楽しみ、そして子どもの気持ちに寄りそいながら一緒に読んでみてください！おすすめの1冊です。

釣船 廣子

図書館フレンズ活動報告

昨年度の集計ができました。配架に1587名、書庫入れ作業に479名、修理・装備・清拭に434名、館内装飾に26名、リサイクル関連に131名、広報関連に70名ものご参加をいただき、年間の延べ参加人数が2727名にもものぼりました。登録者は84名ですので、お1人平均32.5日来てくださったこととなります。また、修理冊数が3082冊、清拭冊数が3041冊とたくさんの方が蘇り、699冊の本が図書館の資料に加えられました。図書館フレンズの皆様がボランティアで多岐にわたって図書館をサポートしてくださっているおかげで、阪南市立図書館は円滑に回っております。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

新たにボランティアしてみようかな、という方はどうぞカウンターにお申し出ください。随時ご登録いただけます。

年度	登録者数	総計
2003	20名	155名
2004	28名	682名
2005	33名	652名
2006	36名	1000名
2007	48名	1369名
2008	61名	1540名
2009	75名	2444名
2010	75名	2541名
2011	82名	2440名
2012	82名	2463名
2013	84名	2727名

図書館フレンズ 2013年度活動日数集計表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
朝の配架	138	133	133	125	122	114	120	108	120	113	113	123	1462名
月末整理日	9	14	13	10	11	10	8	11	0	15	14	10	125名
配架人数計	147	147	146	135	133	124	128	119	120	128	127	133	1587名
書庫入れ作業	45	35	42	46	38	43	32	49	42	28	31	48	479名
修理・装備人数計	45	38	35	46	36	42	38	34	32	30	29	29	434名
修理冊数	342	251	214	264	227	304	274	226	208	296	240	236	3082冊
本の清拭冊数	431	121	165	583	240	221	309	233	191	72	288	187	3041冊
装備冊数	49	76	96	84	25	46	57	87	90	40	40	9	699冊
館内装飾人数計	1	2	0	2	3	5	2	3	3	0	2	3	26名
リサイクル人数計	2	2	2	37	5	2	27	3	3	46	0	2	131名
広報人数計	0	13	3	0	0	21	7	0	0	6	15	5	70名
総計	240名	237名	228名	266名	215名	237名	234名	208名	200名	238名	204名	220名	2727名

2013年度 総計(延べ人数) 2727名

阪南市に、本好きな子どもが増えることを願って、

第二次阪南市子ども読書活動推進計画

が策定されました。

図書館や学校はもちろん、子どもに関わる大人が中心となって、子どもの読書を推進していこうという

計画です。特に、家庭で、家族一緒に本を読む時間を大切にしてほしいという思いから、「毎月23日

は家庭読書の日」と決めました。

毎月23日は家庭読書の日